

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101960		
法人名	(株)うつのみやファミリー		
事業所名	グループホームうつのみやファミリー		
所在地	栃木県宇都宮市岩曾町441番2		電話番号:028-689-3021
自己評価作成日	令和 4年12月18日	評価結果市町村受理日	令和 5年 2月22日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル		
訪問調査日	令和 5年 1月17日	評価確定(合意)日	令和 5年 2月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念でも掲げているように、笑顔で利用者様に接し思いやりと、感謝の気持ちを持ち合わせ、接する事が出来る人であるように心掛けています。 ・一番は、利用者様が困っている事、何か相談したいことがあるのではないか、何処か痛い所があるのではないか等お顔を拝見した時に、察する事が出来る人で有りたいと思います。 ・どんな小さな事でも打ち明けて下さり、解決に結び付けられる様に、悩み・一緒に涙を流せる人で有りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成14年開設の2階建て2ユニットのグループホームで、(株)うつのみやファミリーが運営している。他に福祉施設の「有料老人ホーム」「訪問看護」「通所介護」事業も運営している。食事時やおやつ作りなどの会話を大切に笑顔で接し受容の気持ちで利用者の思いに真剣に耳を傾けるなど信頼関係を大切に生き生きとした生活を目指し支援に取り組んでいる。例年は地区体育祭、文化祭の参加や豊郷小中校の運動会、北高文化祭にも招待を受け参加している。運営推進会議は利用者、家族、地域包括、自治会長、駐在所員が委員で書面で定期開催している。医療支援は協力医と歯科医の月2回訪問診療の他、法人の訪問看護による毎週木曜日の健康管理は家族の安心と信頼に結びついている。利用者、家族から看取り希望が多く職員は主治医、看護師及び家族の協力を得て心のこもったターミナルケアに取り組んでいる。法人が運営する福祉施設と共に管理者、職員が一体となり地域と共に利用者、家族の安心と信頼に繋がる支援に務めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (1階ユニット) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (1階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理綱領を基に6項目の行動指針を作成し、管理者・職員間の共有、また家族との理念の共有を通して実践につなげている。基本理念と行動指針については、壁に掲示し朝礼で唱和している。	行動指針を作成し、ホーム会議で支援を振り返りながら実践に繋げている。日常的にも管理者はOJTを通して支援のアドバイスをしている。笑顔で接し受容の気持ちで真剣に耳を傾けるなど、信頼関係を大切に生き活きた生活を目指し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一般家庭と同様に自治会に加入し、近隣住民との付き合いを大切にしている。コロナ禍であるのを踏まえ、回覧板を通して地域の行事に参加したり交流を持ち、地域での役割を担い、常に協力体制を整えている。	近隣住民との交流は大切にしている。コロナ禍のない例年は地区体育祭や文化祭、更に豊郷小中校の運動会、北高文化祭にも参加して交流している。「マジックショー」「蕎麦打ち」のボランティアは定例行事計画に取り入れている。自治会の役員会には地域の一員として参加し事業所内容の説明などしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、認知症ケアに尽力している。また、認知症サポーター養成講座等に協力している。美化作業の様子を見て頂いて出来ることへのアプローチをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、運営状況、利用者状況、活動状況を報告し話し合いを持ち開示している。家族や委員の方には会議録を隔月の事業所便りにて報告している。	利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括、駐在所員が委員となりコロナ禍の現在は書面で定期開催している。利用者状況や事故、行事などの報告を会議資料として郵送している。今年度から返信用封筒と意見、アドバイスの記入用紙を同封している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括とは運営会議を通して事業所の状況把握と意見交換をしている。地域包括支援センターとの連携、また市町村への担当部署へも運営に関しての相談をしている。	地域包括は運営推進会議を通して事業所状況を把握している。市の担当部署とは主に電話で相談報告をしている。令和4年12月に市の実地指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に注意して見守りする事で身体拘束をしない、事故防止に留意する支援に取り組んでいる。離脱しそうな入所者には散歩をするなどの支援をしている。職員は研修を通して知識を習得している。	車椅子利用3名、杖利用3名、歩行器利用1名の利用者には、それぞれに対応した見守りや、寄添いなどで拘束のないケアに取り組んでいる。1名の帰宅願望が強い利用者には話題を変えたり時には、一緒に外に出るなどのケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止及び身体拘束等の適正化の指針の沿って、その理念の理解をする事で不適切ケアに繋がらないようにケア会議の中に問題提起し話し合いの場を持っている。委員会として設置している。		

自己	外部	項目	自己評価（1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学ぶ機会を持ち、また個々に学習の意識が高まるように指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらゆる事項に関して十分な説明を行い、不安や疑問点について問い合わせしやすいようにご家族への申し送っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関して相談箱を設けて意見しやすくしている。また、苦情報告書の作成を行い、ご家族の意見が反映されやすいように努めている。都度、貴重な意見として取り上げに速やかに対処している。	令和4年はコロナ禍による面会禁止でもあり、電話により暮らし振りなどを積極的に伝え聴く事を心掛けている。運営に関する具体的な意見、要望はほとんど聞かれない。利用者の好きな果物の差入れが困難となり購入を依頼され対応している。利用者からの希望で趣向を凝らしたおやつ作りなど対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告・連絡を徹底し、職員個々の意見等が反映されやすいように会議等で積極的に意見を取り入れている。	ホーム会議において「安全委員会」「看取り委員会」「排泄委員会」を設置し意見、要望の収集に努めている。管理者は現場でも直接意見要望を聞くよう心掛けている。外出自粛により減った楽しみの機会のカバーとして、職員の提案による内部のイベントに趣向を凝らしたおやつ作りを多くして利用者と一緒に楽しんでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	派遣雇用の採用など人材確保、職場環境の改善に取り組んでいるが、求人募集不足や離職防止は依然として厳しい状態である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足が非常に厳しく、個々の職員に対して大きな負担となっている。外部研修の機会などを通して人材育成に寄与している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人単位ではあるが、Webを通してリモート研修に参加したり同業者との交流を行い、個々のスキルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価（1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と連携し本人の希望に沿って安心して生活して頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な聞き取りを行い、信頼関係が築けるように努めている。前環境についてアセスメントを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	包括、ケアマネと共に十分に検討し、適切な介護サービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族のような関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にして、介護サービスに繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中馴染みの方との面会が出来ていない。手紙等を通して絆支援を行っている。	コロナ禍のない例年は地区体育祭、文化祭の参加が知人、友人と会う機会になっている。また家族の訪問時に協力を得て外出や外食をしたり、盆正月の帰宅や外泊などの支援をしている。ボランティアの定例行事「マジックショー」や「蕎麦打ち」は1階と2階合同で行い馴染みの利用者同士が顔を合わせる機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内で1.2階の合同レクを行い、利用者同士が交流を持ち人間関係が円滑になっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご様子を伺い施設・医療機関等に電話で確認している。必要に応じて家族、本人から相談に応じ支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り個別的に希望や意向を把握し、実現可能な事項に関しては行えるようにしている。常に本人本位で検討している。	食事時などの会話から、したい事を聴き出す他に家族との電話からも情報を得て支援に繋げている。希望により新聞を購読している複数の利用者や好物の果物を購入している利用者もいる。食事時は利用者が積極的に副食の盛り付けやテーブル拭き、配膳などの協力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使用してきた物の持ち込み等は制限せず、馴染みの暮らしや生活環境を維持出来るように努めている。また、入所前のサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に情報を共有できる機会を設け、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1年毎の定期見直しをしている。長期目標は1年短期目標は6ヶ月にしている。毎月ケア会議では個別サービス実施状況記録を基に6ヶ月ごとにモニタリングを行い、現状に即した計画になるように努めている。サービス担当者会議の承認は郵送になっている。	見直しは1年毎を基本にし目標は長期を1年、短期を半年にしている。毎月のケア会議、個別サービス実施記録など基に半年毎のモニタリングを行い現状に即した計画を作成している。サービス担当者会議は電話や郵送による承認になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し介護計画の見直しに役立てている。また、必要に応じて記録用紙を新たに作成し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせたターミナルケア等にも対応し、体制の強化を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域の方々とも交流を大事にし、心身の力を発揮して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（1階ユニット）		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受け、月2回の訪問歯科診療も受けている。多方面から医療的支援を受けている。他科受診に関しては職員が付き添う事もあり、適切な医療支援は家族の安心に結びついている。	全員が月2回訪問診療可能な「協力医」をかかりつけ医にしている。また月2回「歯科医」の訪問診療も受けている。法人運営の「訪問看護ステーション」による毎週木曜日の健康観察などの適切な医療支援は家族から信頼を得ると共に安心に繋がっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護を受け、健康管理や介護職では難しい爪切りや耳掃除を行って来られている。職員への介護の指導も行ってもらえ一貫したケアが出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と連絡を密にし、退院支援、情報交換に努めている。救急搬送時も病院との連携シートを活用し情報の共有をスムーズに確実に出来るようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の見取りに関しては家族と事前確認を行い、担当医からのICを取り終末期介護が行えるような体制を整えている。家族からの見取りの希望は強い傾向にあるため、委員会を設けてターミナルケアを実践している。	利用開始時に「グループホームにおける重度化対応に関する指針」に基づき看取り介護が可能な旨を説明している。看取り希望が多く「終末期の看取り等指針」にて事前確認を行っている。家族、主治医、看護師など関係者と相談し、心を込めたターミナルケアに取り組んでいる。令和4年に看取りした3名の利用者家族から感謝されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を定期的に行っている。急変時や事故発生時は訪問看護師へ報告し、指示を仰いでいる。誰でも実践力を付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応できるように定期的に災害時のシュミレーションを行い、職員全員が同様の手順が取れるように確認している。	令和4年5月は夜間想定、11月は日中想定避難誘導訓練を実施している。避難経路、消火器、消防施設などの設置場所と使い方なども確認している。		

自己	外部	項目	自己評価（1階ユニット）		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊厳を持ち、言葉遣いや接遇には特に注意している。気になる事がある時は、会議の場に議題として取り上げ職員同士に周知喚起している。	職員は利用者の両親、祖父母に近い年齢で、また人生の先輩でもあり敬う気持ちで接し、日常の支援に務めている。笑顔で接し会話は丁寧で判り易い言葉に努めている。「チャン」付けは厳禁している。排泄で失敗した時は、他の利用者には気付かれない様さり気ない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の対応とし、自由に意見を表出出来るような雰囲気づくりをし、自己決定を尊重してサービス内容を決定してもらっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合わせたペースで生活して頂き、利用者本位でケアを行っている。会話の中から本人の希望を伺い希望に添えるようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容訪問カラーリング等のサービスを受けている。希望時はお化粧品やマニキュアなども行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	タイヘイの宅配食を利用している。誕生日や行事の時は特別メニューとし入居者様と一緒に出来るレクレーションを提供している。食事の準備後片付けは共に行っている。職員も同じ物を一緒に食べている。	食事は宅配食を利用している。おせち料理など季節の特別メニューは楽しみになっている。積極的な利用者が副食の盛り付けを器用に手伝っている。おやつは母の日、七夕、クリスマスや記念日など多い時は月に4～5回あり、一緒に作る喜びと食べる幸せを楽しんでいる。例年ボランティアの「蕎麦打ち」は見学と食べる楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や栄養バランス、摂取量を観察し一人ひとりに合わせた支援が出来るように努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態や個々の力に合わせ、訪問歯科の指導の元、訪問歯科と連携し口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価（1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に合わせて、時間誘導と意思表示での誘導によるトイレ自立排泄支援をしている。夜間に関して睡眠優先ながらも自発的に起きてくる方は誘導している。	現在10名が昼夜とも自立排泄をしている。他は意思表示やサインなども参考に排泄チェック表を活用しトイレ排泄の支援をしている。夜間は睡眠を優先しているが自立排泄者や、自発的に起きた利用者もトイレ誘導の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や運動を行い便秘予防に努めている。また、排泄パターンを把握し、訪問診療医の指示の元、薬の投薬も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は2回/Wを基本にしている。湯加減や入洗身には拘りがあるので、個々の好みに合わせて入浴剤など個別対応している。ほとんどの方が介助を要しているが、皆入浴を喜ばれている。	週2回の入浴は利用者の好みを尊重し湯加減や入浴剤の個別対応の支援をしている。ほとんどの利用者に洗髪や背中洗いなど介助の支援をしている。柚子湯や菖蒲湯の季節湯、入浴剤で温泉気分など楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて休息、睡眠を提供している。夜間の良眠を促すために日中の活動性が上がるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録に服薬の情報を載せ、服薬支援と情報の共有をしている。誤薬のないようにダブルチェックを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし役割を持って生活して頂いている。午前と午後にレクリエーションを行って楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、「コロナ禍」であるため外出支援は行っていない。家族との面会もリモート面会や窓越し面会となっている。地域の方との交流も行っていない。	日頃は、散歩など戸外に出る機会が多くなる様な支援に心掛けている。初詣、花見、紅葉狩りなどの年間行事による外出は楽しい時間を過ごしている。家族の協力による外食や外泊をする利用者の支援にも取り組んでいる。令和4年はコロナ感染が減少した時期の9月と10月はドライブを行い外出気分を味わった。	

自己	外部	項目	自己評価（1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望に合わせて、ご家族との話し合いの元、所持して頂いている。自分で金銭管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に合わせて支援している。携帯電話の使用は家族の了解の元許可している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節感を出した装飾をしている。入居の方も手伝って頂いて、意見を聞きながら飾りつけをしている。トイレ、床、居室、浴室、玄関の掃除や消毒、も入居者様と一緒にやっている。庭の花木の手入れも一緒に行って、自分たちの役割を感じてもらっている。	利用者と一緒に季節感を表す装飾品を作り飾っている。家族から寄贈の雛人形や七夕飾り、クリスマスツリーなど利用者の経験を聞きながら一緒に行った飾りつけは、家庭での楽しい思い出にも繋がっている。清掃と消毒は行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居心地の良い場所になるように支援している。共有スペースでは迷惑行為のないように一人ひとりにお声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と本人の希望に合わせて自由に好みの物を持って来て頂き、自分の家の時のように心地よい空間づくりをしている。	全室洋間で縦型の物入が設置されている。窓側に洗面台が取付けられ、また50cm幅の棚が取付けられ小物置きなどに使用している。ベッドや家具など必要なものは持込を基本にしている。家族の写真や仏壇を持ち込み思い思いの部屋作りをしている。全室加湿器とエアコンは設置している。清掃は毎日職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭の雰囲気を大切に個々の力えお活かせるように工夫している。危険な箇所がないか毎日見回りをしている。居室内も本人の許可の元で危険な物は置かないようにしている。		